



■活動日：2016年5月14日（土） 10：00～15：00

■参加者：チーム神於山 正会員 11名

■活動内容

- ・フクロウの観察が一段落した今回は、記念樹ゾーンの草刈りと、楢木へのシイタケの種駒の打ち込みをメインに考えていましたが、フクロウのDNA調査でシャープの森に来られた大阪府立大学 生命環境科学研究科の平井准教授から、フクロウが営巣した巣箱の中に、親鳥の羽根があれば採取してほしいとの依頼がありましたので、急遽フクロウの巣箱の撤収を加えて活動しました。
- ・結果、記念樹ゾーンだけでなく、その前の多目的広場の草もほぼ刈り終え、シイタケの種駒800個の打ち込みを終え、フクロウの巣箱も、架けた2個を撤収し基地に運びました。
- ・平井准教授依頼のフクロウの羽根は、親鳥のものかどうかははっきりしませんが、巣箱から数枚回収できたので15日に府大の研究科宛に送付しました。結果が楽しみです。
- ・活動頂いた11名のメンバーの皆さん、お疲れ様でした。

■次回の目標

- ・次回（5月28日）は、今回見送った“昼寝の床作り”や、竹を飯盒にしてご飯を炊く“竹飯”にも取り組もうと思います。ネットで「竹飯」で検索すると、色々な炊き方が出ています。一度見てください。

■記念樹ゾーンも多目的広場もスッキリ。… 次回は、6月後半か7月に刈り頃になりそうです。



記念樹ゾーンも、その前の多目的広場もスッキリしました。

■作業風景ー1

シイタケの種駒打ち。専用の椎茸ビットをドリルに取り付けて穴をあけ、種駒を打込みます。



- 全部で 40 本の楢木に種駒を打込みました。
- これで前回の分と合わせると 85 本のシイタケの楢木が出来たこととなります。
- 収穫は、二夏後と言われますから本格的には来年の秋以降ですが、菌の回りが早いと来年の春から期待できます。

■作業風景ー2

フクロウの巣箱の撤収。

滑車を通したロープで巣箱を縛り、ゆっくり確実に回収しました。



手近な木にロープを巻きつけ、スピードを調整。



無事着地



スッキリした看板周りをバックに、活動頂いた 11 人のメンバーの皆さん。

■撤収した巣箱の中。

かなり強い匂いがしますが、巣内は、昨年と同じく比較的綺麗です。



かなりかじられたカメラカバー



吐き出したものようですが・・・



ムカデの死骸。15cm あります。



・今回の活動では手が回らなかった巣の中に残っている残渣の回収も次回の活動テーマになります。

- ・ 昨年のトレイルカメラの映像に、親鳥が大きなミミズのようなものを啜っているものがありましたが、今年は巣箱にムカデの死骸がありました。
- ・ フクロウの好物はネズミで、シャープの森に近辺でも巣穴を見つけていますが、ここではどうやら虫類が主食になっているようです。



効果的だったよじ登り支援棒。一番上と二番目の棒に爪痕が多数あります。

- ・ 来年のフクロウの棲む森づくりは、10月に予定している巣箱づくりからスタートです。
- ・ 昨年同様、竪穴式の巣箱も営巣した木のそばに付けて、どちらを選ぶか2回目のテストをしますが、果たしてどうなるか楽しみです。
- ・ 日本バードレスキュー協会の村濱さんも、気象庁の西垣さんも、岸和田市も、全て上穴式の巣箱の中で、神於山シャープの森だけが横穴式で頑張っていますが、ネットで「フクロウの巣箱」で検索したところ、「八ヶ岳山麓のフクロウ保護活動（巣箱掛けによる子育て支援）」を見つけました。
- ・ 八ヶ岳自然クラブのフクロウグループの活動報告で、このグループは、横穴式の巣箱で、2005年から2015年の11年間で累計122羽のフクロウを巣立たせています。
- ・ <http://www.shizenclub.net/info/gr-owl.html> で見る事が出来ますので一度見てみてください。参考になることが色々書かれてあります。

以上